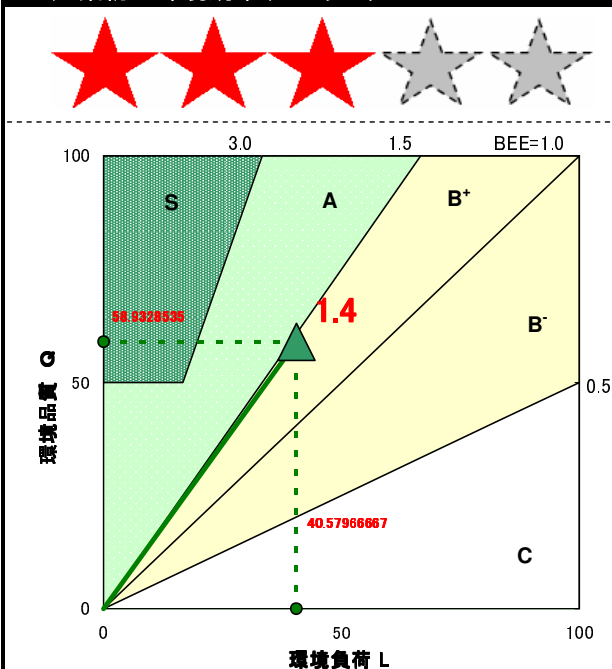


CASBEE®熊本《新築》【性能表示】

■ 建物概要				■ 外観
建物名称	熊本労災病院新棟	階数	地上5F	
建設地	熊本県八代市竹原町1670番地	構造	RC造	
用途地域	第二種中高層住居専用地域、埋蔵	平均居住人員	500 人	
気候区分	地域区分Ⅴ	年間使用時間	8,760 時間/年	
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2014年9月 予定	評価の実施日	2011年2月3日	
敷地面積	26,722 m ²	作成者		
建築面積	5,226 m ²	確認日	2011年2月7日	
延床面積	10,516 m ²	確認者		

1 CASBEE評価結果

■ 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)



BEE = 1.4

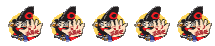
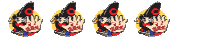
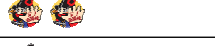
$$\text{BEE (環境効率)} = \frac{Q \text{ (環境品質)}}{L \text{ (環境負荷)}}$$

■ CASBEE 評価基準

ランク	ランク表示	評価	判定値	
			BEE値	Q値
S	☆☆☆☆	素晴らしい	3.0以上	50以上
A	☆☆☆☆	大変良い	1.5以上3.0未満	—
B ⁺	☆☆☆	良い	1.0以上1.5未満	—
B ⁻	☆☆	やや劣る	0.5以上1.0未満	—
C	☆	劣る	0.5未満	—

2 熊本県重点評価結果

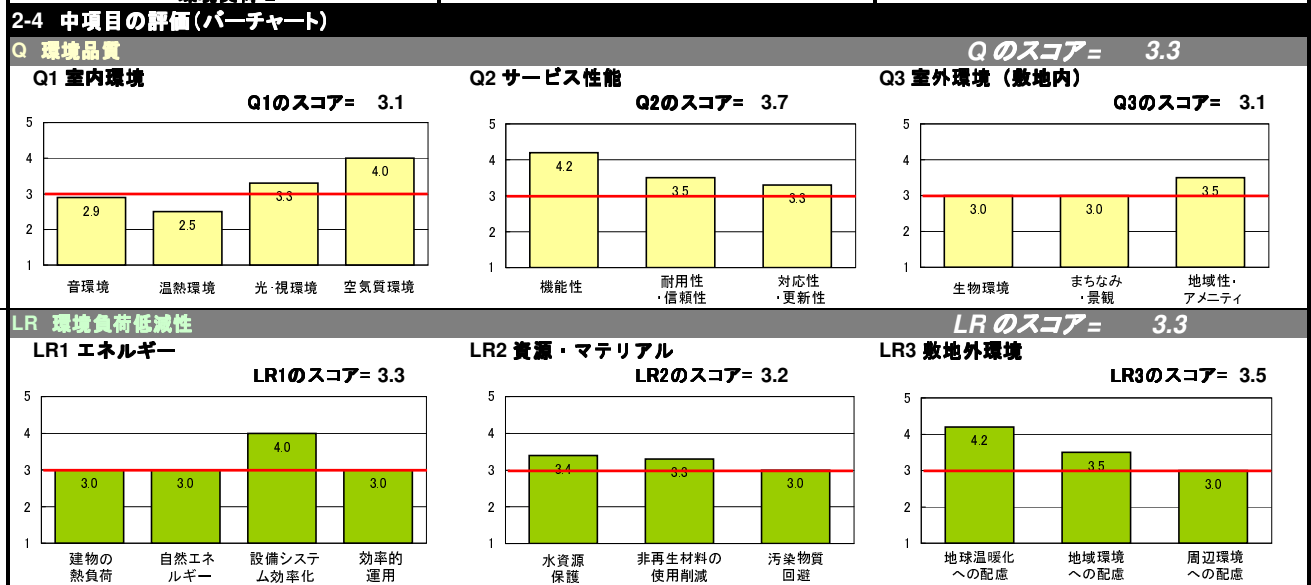
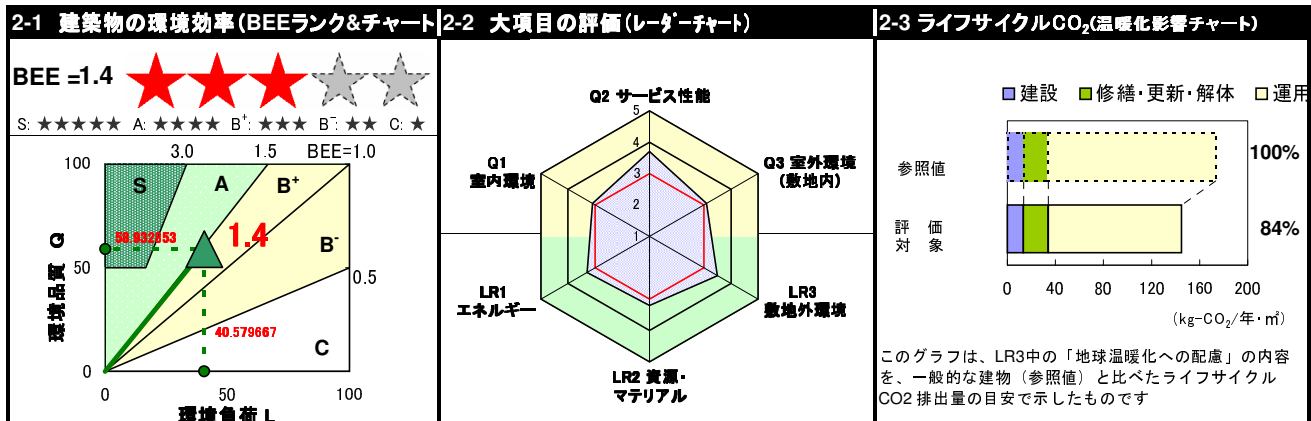
■ 重点事項総合評価

重点事項総合評価			評価点
			84
【重点事項1】 温室効果ガス排出量削減の推進	評価点	■ 熊本県重点評価基準	
	86.3	判定値(評価点)	ランク表示
【重点事項2】 安全安心で暮らしやすい社会の実現	93.7	100点以上	
【重点事項3】 県の地域資源の有効活用と保全	75	80点以上100点未満	
【重点事項4】 循環型社会の実現	80.4	60点以上80点未満	
		40点以上60点未満	
		40点未満	
※評価点は、100点以上が推奨です。			

CASBEE®熊本《新築》【評価結果】

■使用評価マニュアル：CASBEE-新築（簡易版）2008年版 使用評価ソフト：CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	熊本労災病院新棟	階数	地上5F
建設地	熊本県八代市竹原町1670番地	構造	RC造
用途地域	第二種中高層住居専用地域、埋蔵	平均居住人員	500 人
気候区分	地域区分V	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2014年9月 予定	評価の実施日	2011年2月3日
敷地面積	26,722 m ²	作成者	
建築面積	5,226 m ²	確認日	2011年2月7日
延床面積	10,516 m ²	確認者	



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される■LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい

CASBEE[®]熊本《新築》【配慮事項】

4 設計上の配慮事項

総合

室内環境として、利用者の利便性、健康性に配慮しバリアフリー化、館内禁煙化を図り快適な生活ができる予算計画をしている。

外皮面に断熱材を使用することによって、室外からの負荷を低減している。

室外環境としては、敷地内と屋上に緑化を設け良好な景観形状と建物利用者のための適切な量の駐輪場・駐車場を確保し利便性への配慮をしている。

Q1 室内環境

室内空気質を保つために内装材のほぼ全面にF☆☆☆☆を採用し、発生源対策を行っており、館内は全面禁煙としている。

昼光利用を積極的に行うと同時に庇によりグレアの制御を行っている。

外皮にはペアガラス・適切な断熱施工を行い、外皮性能に配慮している。

Q2 サービス性能

バリアフリー新法の建築物利用等円滑化誘導基準への配慮をしている。

空調・給排水設備に耐用年数の長い材質を使用しており更新必要間隔が長い。

電気・通信設備に対する信頼度が高い。

Q3 室外環境（敷地内）

適切な緑地づくりを行うとともに、敷地内の緑化により地域景観の向上に配慮している。

LR1 エネルギー

外皮に断熱材を使用し建物の熱負荷の低減を図っている。

空調システム、照明システムの高効率化を図っている。

LR2 資源・マテリアル

躯体と仕上げ材の分別が比較的容易で部材の再利用の可能性向上に取り組んでいる。

節水型の器具を採用し水資源の保護に努めるとともに、ハロン消火剤を使用していないなど環境に配慮している

LR3 敷地外環境

ライフサイクルCO2排出量の低減を図っている。

建物利用者のための適切な量の駐輪場・駐車場を確保し利便性への配慮をしている。

さらに管理用・荷捌用の駐車スペースを確保している。

その他

0

CASBEE-新築(簡易版)2008年版
熊本労災病院新築

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2008年

■評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

スコアシート		実施設計段階				
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質						3.3
Q1 室内環境			0.40			3.1
1 音環境		3.0	0.15	2.8	1.00	2.9
1.1 騒音		3.0	0.40	3.0	0.40	
1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	1.00	
設備騒音対策		-	-	-	-	
1.2 遮音		3.0	0.40	2.6	0.40	
1 開口部遮音性能		3.0	0.40	3.0	0.30	
2 界壁遮音性能		3.0	0.60	3.0	0.30	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	2.0	0.20	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	2.0	0.20	
1.3 吸音		3.0	0.20	3.0	0.20	
2 温熱環境		2.5	0.35	2.8	1.00	2.5
2.1 室温制御		3.2	0.50	3.8	0.50	
1 室温設定		3.0	0.38	3.0	0.57	
負荷変動・過熱制御性		-	-	-	-	
3 外皮性能		4.0	0.25	5.0	0.43	
4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御		-	-	-	-	
6 個別制御		-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-	
8 監視システム		-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	0.20	
2.3 空調方式		1.0	0.30	1.0	0.30	
3 光・視環境		3.3	0.25	3.1	1.00	3.3
3.1 昼光利用		4.2	0.30	3.6	0.30	
1 昼光率		5.0	0.60	4.0	0.60	
2 方位別開口		-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	0.40	
3.2 グレア対策		3.0	0.30	3.0	0.30	
1 照明器具のグレア		-	-	-	-	
2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	1.00	
3.3 照度		3.0	0.15	3.0	0.15	
1 照度		3.0	1.00	3.0	1.00	
2 照度均斉度		-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	0.25	3.0	0.25	
4 空気質環境		4.0	0.25	4.7	1.00	4.0
4.1 発生源対策		5.0	0.50	5.0	0.63	
1 化学汚染物質		5.0	1.00	5.0	1.00	
2 アスベスト対策		-	-	-	-	
3 タバコ・カビ等		-	-	-	-	
4 レジオネラ対策		-	-	-	-	
4.2 換気		3.0	0.30	4.3	0.38	
1 換気量		5.0	0.50	5.0	0.33	
2 自然換気性能		-	-	3.0	0.33	
3 取り入れ外気への配慮		1.0	0.50	5.0	0.33	
給気計画		-	-	-	-	
4.3 運用管理		3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視		-	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	1.00	-	-	
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-	3.7
1 機能性		4.4	0.40	3.4	1.00	4.2
1.1 機能性・使いやすさ		4.0	0.60	3.0	0.60	
1 広さ・収納性		-	-	3.0	1.00	
2 高度情報通信設備対応		-	-	-	-	
3 バリアフリー計画		4.0	1.00	-	-	
1.2 心理性・快適性		5.0	0.40	4.0	0.40	
1 広さ感・景観		-	-	3.0	0.50	
2 リフレッシュスペース		-	-	-	-	
3 内装計画		5.0	1.00	5.0	0.50	
1.3 維持管理		-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		-	-	-	-	
2 耐用性・信頼性		3.5	0.31	-	-	3.5
2.1 耐震・免震		3.8	0.48	-	-	
1 耐震性		4.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		2.9	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		2.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		4.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-	

2.3 適切な更新				-		-	
2.4 信頼性			3.8	0.19		-	
1	空調・換気設備		4.0	0.20		-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3	電気設備		4.0	0.20		-	
4	機械・配管支持方法		4.0	0.20		-	
5	通信・情報設備		4.0	0.20		-	
3 対応性・更新性			3.3	0.29	3.5	1.00	3.3
3.1 空間のゆとり			4.0	0.31	4.0	0.50	
1	階高のゆとり		4.0	0.60	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ		4.0	0.40	4.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性			3.0	0.38		-	
1	空調配管の更新性		2.0	0.17		-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17		-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11		-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11		-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22		-	
6	バックアップスペース		4.0	0.22		-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.1
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮			3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮			3.5	0.30	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.3
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.3
1 建物の熱負荷抑制			3.0	0.30	-	-	3.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=19	4.0	0.30	-	-	4.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.2
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水		4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水再利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水再利用システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.3	0.63	-	-	3.3
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生クラッシュラン、再生アスファルト	4.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取り組み		4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.22	-	-	3.0
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.68	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	断熱材		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.5
1 地球温暖化への配慮			4.2	0.33	-	-	4.2
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		4.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.3	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		-	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.33	-	-	
3	交通負荷抑制		5.0	0.33	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.33	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、日照阻害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	日照阻害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	